

長野県宝の指定等について（案）

文化財・生涯学習課

文化財保護条例（昭和 50 年長野県条例第 44 号）第 4 条第 1 項及び第 5 条第 1 項の規定により、下記のとおり長野県宝に指定し、及び長野県宝の指定を解除するものとする。

記

1 長野県宝に指定する文化財

名 称	員 数	所 在 地	所有者の住所及び氏名 又は名称
きゅうねんらいじしょうろう 旧念来寺鐘楼	1 棟	松本市中央 4 丁目 1375 番 6	松本市中央 4 丁目 9 番 13 号 宗教法人 <small>みょうしょうじ</small> 妙勝寺

2 長野県宝の指定を解除する文化財

名 称	員 数	所 在 地	指 定 告 示
<small>ひなたばやし いせき</small> 日向林 B 遺跡 <small>しゅつどひん</small> 出土品	1 点	千曲市屋代字清水 260－6 長野県立歴史館	平成 19 年 1 月 11 日 長野県教育委員会告示第 1 号

長野県宝候補物件調査票

- 1 種 別 建造物
- 2 名 称 きゅうねんらいじしやうろう
旧念来寺鐘楼 1 棟
- 3 所在地 長野県松本市中央 4 丁目 1375 番 6
- 4 所有者の住所及び名称 長野県松本市中央 4 丁目 9 番 13 号 宗教法人 妙勝寺
- 5 管理者の住所及び名称 同 上

6 現 状 (1) 沿 革

念来寺は、木食派の始祖弾誓の三世法孫唱岳長音を開基として元和 5 年（1619 年）に開山され、光明山念来寺と称した。開山にあたり松本藩主戸田氏から土地の寄進を受け、1800 坪の寺域を備えた大規模な寺院であった。木食行とともに作仏行を行う天台宗木食派の寺で天台律宗に属し、檀家をもたなかったが、本尊阿弥陀如来（長音作仏、像高 7 尺）は「清水の大仏（おおぼとけ）」と呼ばれ、庶民の寺として信仰を集めた。その後、六世空幻明阿が中興して寺観を改めた。文化 5 年（1808）～天保 6 年（1835）以前の伽藍を描いた城下町絵図（松本城管理事務所蔵）があり、本堂、庫裡、庫裡と回廊で結ばれた袴腰付きの鐘楼などが描かれている。

現在の鐘楼は、この明阿によって宝永 2 年に建てられたものである。『信府統記』（享保 9 年、松本藩藩主・水野忠恒の家臣が編纂）にも、既に「時の鐘」と記されて親しまれた建築であった。

明治 5 年（1872）廃仏毀釈により、廃寺となり伽藍は破壊されたが、時の鐘を告げていた鐘楼のみが、その後も役割を果たすため破壊の難を免れた。時鐘は元禄 12 年（1699）に鑄造（鐘銘）された外径 1.2 m の大鐘で、松本本町の鑄物師田中伝左衛門吉繁の作であったが、第二次世界大戦中の供出で失われた。また、高欄にあった青銅の擬宝珠なども供出された。

本鐘楼が建築されたのは、棟木に記された墨書「宝永二乙酉曆八月十六日」と上層天井中央にある方位板に書かれた銘文「宝永龍舎乙酉 仲秋既望日」から、宝永 2 年（1705）であることが明らかとなっている。また、念来寺常什物記（写本・抜粋）に、「一、鐘楼堂四間四間 クミモノ本ミテサキハリマ七間不残ケヤキ丸柱也ホウトウ作高七間半四方五間出ヌキ也 右宝永二乙酉年不残成就 中興明阿上人代 撰津国大坂四天王寺檜皮衆和泉守藤原家次 同中村善兵衛 中村武兵衛 中野伝六、宝永七庚寅霜月八日 銅屋根師 武蔵国埼玉郡光田想七」とあり、宝永 7 年（1710）に銅板葺に改められたことがわかる。

(2) 構造形式

ア 概要

旧念来寺鐘楼は、桁行三間、梁行二間、袴腰付の鐘楼で、屋根は入母屋造、本瓦形銅板葺とする。平面規模は上層が桁行4.9m、梁行3.9mで、鐘楼としては規模の大きなものである。

イ 構造形式

鐘楼の下層は土間で、自然石の上に角柱を立て、腰貫2段を通し、梁を縦横に架ける。上層の柱は、この梁の上に立つ。袴腰の板は二次材であるが、下地の構造材は当初のものとみられる。階段は、上層の中央に上がるように作られているが、縁板や根太の痕跡から、当初は柱筋に沿った位置に上るようになっていたことがわかる。

上層の縁は、下層の柱に台輪を置き、拳鼻付き三手先組物の腰組で支える。腰組の中備には異形の絵様臺股をいれる。縁は切目縁で、擬宝珠高欄をつけ、高欄の正面中央には蕨手をつける。

上層の柱は円柱で、台輪（隅の八双金物は供出され、痕跡が残る）をおき、組物は絵様拳鼻をつけた三手先とする。中備は、平の中間は杵のみの本臺股、同脇の間は菊の花葉を浮き彫りした蓑束、妻側は牡丹等の彫刻の入った本臺股である。支輪は板支輪で蛇腹文様を彩色している。軒は二軒の板軒で、雲文の大柄な彫刻を一面に彫っている。一軒目は、力垂木の下端も一体に彫刻している。二軒目は板軒を桔木で吊る。妻飾りは虹梁大瓶束で笈形をつける。妻には弁柄の彩色が残る。虹梁の渦・若葉には17世紀後期の特徴がよく示されている。懸魚は、かぶら懸魚で、鰭をつける。屋根は厚いこけらの軒付の上を本瓦葺に似た銅板に葺いているが、創建後まもなく檜皮葺から銅板葺にあらためたものである。

上層の内部は、拳鼻付二手先で格天井を支え、中央に朱漆塗の方位盤を取り付け、その中心に時鐘の釣座がある。

ウ 鐘楼の特徴

旧念来寺鐘楼の最大の特徴は、軒裏を一面に雲文の彫刻にしていることで、この彫刻は当初は極彩色に塗られ、軸部材は朱漆塗であったらしい。軒裏に垂木の代りに雲文の彫刻をつける手法は、県内では大町市の若一王子神社観音堂内の宮殿（宝永3年、県宝）に例がある。県外では千葉県成田市の新勝寺三重塔（重要文化財、正徳2年）、徳島県土成町の熊谷寺多宝塔（宝永3年）など14例が知られる（『重要文化財新勝寺三重塔修理工事報告書』）。これらのなかでは、念来寺鐘楼のものが一番古い。記録によれば四天王寺（大阪市）の元和9年（1623）に再建された五重塔（享和元年焼失）が軒裏に彩色された雲の彫刻をつけていた（『長野県史』美術建築資料編2建築）。

エ 建物の状態

鐘楼は、昭和45年（1970）、平成14年（2002）に屋根の銅板葺の修理がおこなわれている。

7 指定の理由及び根拠

（1）指定基準

第1 長野県宝の指定基準

（7）建造物

(ア) 意匠的に優秀なもの

(ウ) 歴史上重要なもの

(オ) 流派的又は地域的特色において顕著なもの

(2) 指定理由

旧念来寺鐘楼は、県内にある鐘楼として建築年代の古いものに属し、現存する彫刻板軒を施した建物の中では国内で最も古いものであり、その施工技術の高さは同様の構造形式・意匠を施したものとの比較から明らかであり貴重である。また、組物に付けられた絵様木鼻、中備の髹股・蓑束などに見られる形式は、江戸時代中期における松本平の大工の作風や寺院建築の形式をよく示しており、県内の建造物の歴史を知る上で重要な建造物である。このほか、松本城下における廃仏毀釈による寺院破壊の事実を物語る建物であるとともに、江戸時代中期のこの地方の寺院建築の様子を今に伝えるものとして貴重である。

8 調査者氏名 長野県文化財保護審議委員 後藤 治
 長野県文化財保護審議委員 吉澤 政己

9 調査表作成年月日 平成23年11月29日

【参考文献】

『長野県の近世社寺建築』長野県教育委員会、昭和57年、平成3年

『長野県史』美術建築資料編2建築、長野県史刊行会、平成2年

『松本市の文化財』第4集、松本市教育委員会

『松本市重要文化財 旧念来寺鐘楼調査報告書』後藤研究室、2010年

『重要文化財 新勝寺三重塔修理工事報告書』新勝寺、1984年

長野県宝指定解除物件調査票

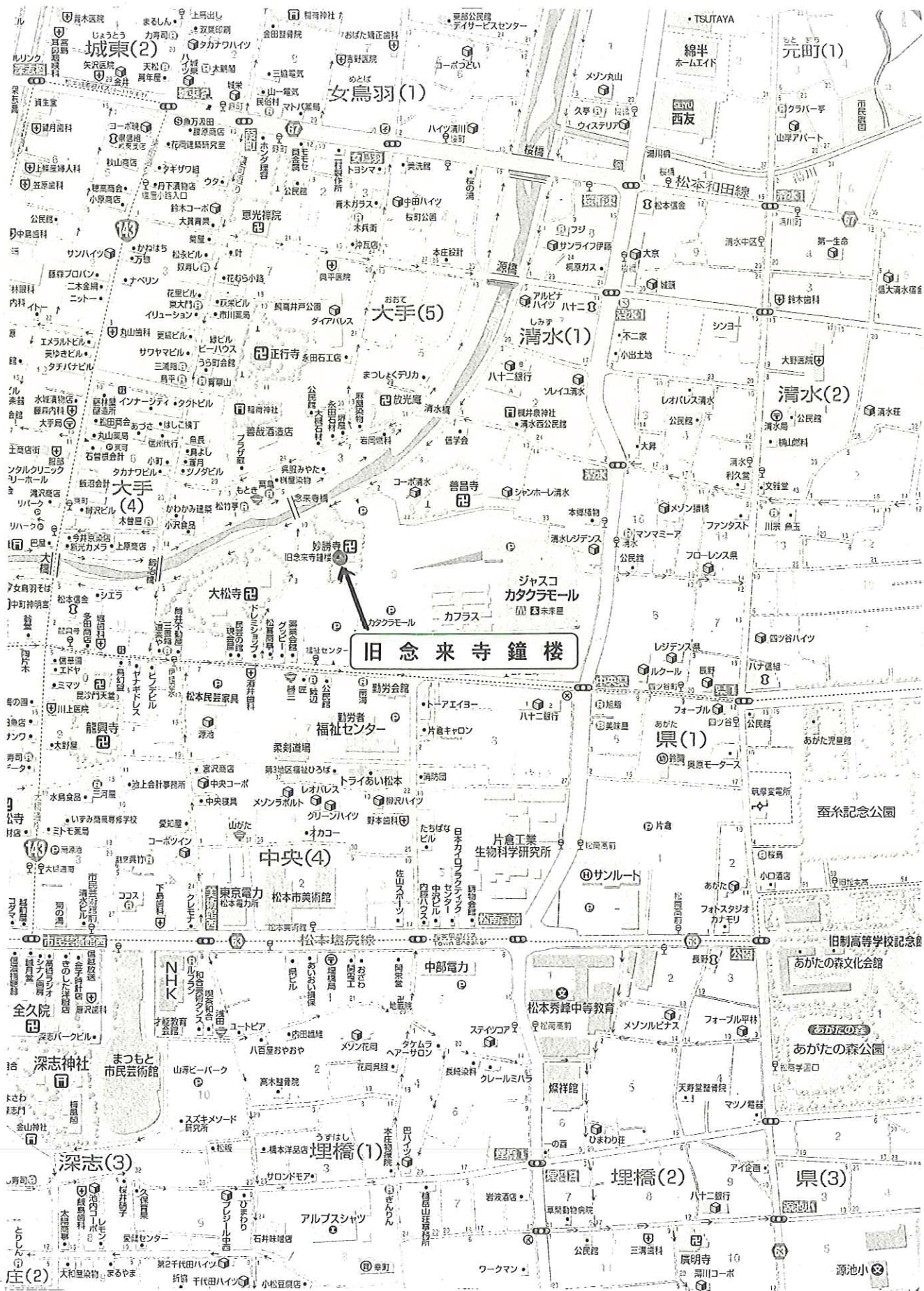
- 1 種 別 考古資料
- 2 名 称 ひなたばやし いせきしゅつどひん
日向 林 B 遺跡出土品 1 点
- 3 所在地 千曲市屋代字清水 260-6（長野県立歴史館）
- 4 所有者の氏名または名称
長野県（長野市南長野字幅下 692-2）
- 5 管理者の氏名 長野県立歴史館（千曲市大字屋代 260-6）
- 6 経過措置の概要
平成 19 年 1 月 11 日 出土品 202 点を長野県宝に指定。
平成 20 年 3 月 収蔵用木箱への収納開始。
平成 22 年 3 月 収納作業中、出土品 1 点の不明が判明。
現在まで、県立歴史館内探索継続中。
平成 22 年 6 月 27 日 県宝 201 点が重要文化財に指定。県宝自動解除（文化財保護条例 5 条第 3 項）。亡失中の 1 点のみ県宝に残る。
- 7 指定解除の理由および根拠
(1) 解除の基準
文化財保護条例第 5 条
県宝が県宝としての価値を失ったときその他特殊の事由があるときは、教育委員会は、その指定を解除することができる。

(2) 解除の理由
県宝 202 点の内、201 点が重要文化財に指定されたことにより、県宝指定が自動解除となっている。亡失中のため県宝に残った貝殻状刃器 1 点が発見されたとしても、県宝としての学術的な価値づけができないため。
- 8 調査年月日 平成 23 年 11 月 27 日
- 9 調査者氏名 長野県文化財保護審議委員 会田 進
- 10 調査票作成年月日 平成 23 年 11 月 27 日

きゅうねんらいじしょうろう
旧念来寺鐘楼 (松本市)

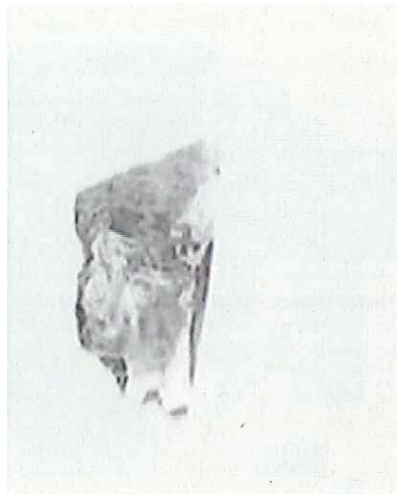


位置図



ひなたばやし いせきしゅつどひん
日向林B遺跡出土品

1点



左 (拡大写真)

- ・縦 12mm
- ・横 7mm
- ・重量 0.53 g

(参考) 国重要文化財 長野県日向林B遺跡出土品 (一部)



位置図

